

【例題1】

種子は、胚と養分貯蔵組織などからできている。⑫などの⑬では胚乳、⑭などの⑮では子葉が養分貯蔵組織となる。種子が芽を出すためには、水・温度・⑯の環境条件が整っていることが必要である。

ダイズ	イネ	有胚乳種子	無胚乳種子	湿度	光	酸素
二酸化炭素		窒素				

(正答) ⑫：イネ ⑬：有胚乳種子 ⑭：ダイズ ⑮：無胚乳種子 ⑯：酸素

【例題2】

少子高齢化、人口減少に伴い、農業者が減少する中、農業・農村が有する課題と労働力を補完するための具体的な対策内容について、200字以内で述べなさい。

【例題1】 スギ等の林分の状態に関する以下の文中の（ア）から（コ）に入る語句又は数値としてふさわしいものを下から選び、その語句又は数値を記入しなさい。

樹高に対する樹冠長の割合を樹冠長率という。林分の混み方が増すにしたがって、（ア）は進行し、閉鎖の状態が進行するほど樹冠長率は（イ）する。樹冠長率が（イ）すると、重心が高くなって風害や冠雪害を受けやすくなる。

（ウ）段階の林分は、林冠の閉鎖の度合いが強く、（エ）が不足し、下層植生が貧弱になる。そのような状態は、表層土壌が侵食され、流亡しやすいため、（オ）が必要である。樹高が25m以上の高齢林では、樹冠長率は60%程度を目指すことが望ましい。

林分が極端に過密になり、樹冠長率が（カ）%に近づいた林分は、（オ）をしても回復の可能性は少なく、気象災害に対しても弱くなる。

樹高（cm）を胸高直径（cm）で割った値のことを（キ）という。これは幹の太さの度合いを示すもので、密度が（ク）と（キ）は高くなる。（キ）が（ケ）を超えると風害や冠雪害に対する安全性が低く、（コ）以下であると安全性が高い。

収量比数	樹冠疎密度	形状比	低下	上昇	低い	高い	若齢	成熟	老齢
林内照度	相対照度	下刈り	間伐	枝打ち	下枝の枯れ上がり	上枝の枯れ上がり			
葉の黄変	5	20	35	50	70	80	100		

（正答）ア：下枝の枯れ上がり イ：低下 ウ：若齢 エ：林内照度 オ：間伐
 カ：20 キ：形状比 ク：高い ケ：80 コ：70

【例題2】 内閣府が令和5年に実施した「森林と生活に関する世論調査」において、森林の有する多面的機能のうち森林に期待する働きについて尋ねたところ、温暖化防止、災害防止、水源の涵養と回答した者の割合が多かった。そこで、森林の有する地球環境保全機能、土砂災害防止機能、水源涵養機能の3つの機能について、300字以内で簡潔に述べなさい。

【例題1】 以下の文中の（ア）から（コ）に入る語句を下から選び、その番号を記入しなさい。

コンクリート構造物を構築するためには、コンクリートの運搬、（ア）、（イ）、仕上げなどの作業が、適切に行われる必要がある。これらの作業には、フレッシュコンクリートの（ウ）及び（エ）特性が大きな影響を及ぼすため、（ウ）のばらつきが少なく、適切な施工を行うことができるコンクリートを用いる必要がある。

（オ）は、（カ）及び材料に対する抵抗性の程度によって定まるフレッシュコンクリートの性質で、運搬、（ア）、（イ）、仕上げなどの作業の容易さを表す。

（キ）は、（ク）の最大寸法、（ケ）率、（ケ）の粒度、（カ）等による仕上げの容易さを示すフレッシュコンクリートの性質をいう。

コンクリート打込み後は一定期間、硬化に必要な温度及び湿潤状態に保ち、有害な作用の影響を受けないよう、適切な方法で（コ）する。（コ）期間は、使用するセメントの種類や現場の気温などに応じて設定する。

1 打込み	2 加水	3 締固め	4 フィニッシュャビリティ	5 熔解
6 分離	7 細骨材	8 粗骨材	9 ワーカビリティ	10 品質
11 圧縮	12 凝結	13 含水	14 プリーディング	15 吸水
16 空隙	17 養生	18 乾燥	19 コンシステンシー	20 引張

(正答) ア：1 イ：3 ウ：10 エ：12 オ：9
カ：19 キ：4 ク：8 ケ：7 コ：17

【例題2】 近年、気候変動による災害の激甚化・頻発化が強く懸念されている。国土交通省白書等によると、豪雨や地震等に伴う土砂災害は、過去10年(平成25年から令和4年)の平均で、1年間に約1,466件発生しており、統計開始以降(昭和57年～)の平均発生件数1,099件を大きく上回っている。

本年8月には、日向灘沖を震源とするマグニチュード7.1の地震を受け、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発出された。将来、南海トラフ地震や活断層による地震などが発生する可能性があり、大きな被害も想定されている。

このような状況を踏まえ、県が行うべき施策について200字以内で述べなさい。

【例題3】以下の文中の（ア）から（コ）に入る語句としてふさわしいものをトから選び、その番号を記入しなさい。

河川から自然の（ア）によって用水を取り入れるとき、河川の水位が（イ）の必要水位より常時安定して高い場合、取水施設のみによる自然取入れが可能である。そうでないときは、河川を（ウ）するせきを設け、水位を高く安定させて取水しなければならない。このような河川の流水を（イ）に引き入れるための施設を、総称して頭首工という。

せきの型式としては、（エ）が可動であるか否かによる分類と、基礎地盤との関連で決まる堤体の（オ）による分類がある。後者では、（カ）に固定して築造される固定型と、透水性地盤に設けられる（キ）型がある。

可動せきは、河道を可動ゲートで締め切り、上流側水位を取水に必要な標高に調節するもので、平時の余水は閉じたゲートの頂部を越流し、（ク）にはゲートを開いて、計画（ケ）をほとんどせき上げの影響なしに流下させることができる。

固定せきは、河床に固定して造られ、可動部分を持たず、取水されない河水はせき頂を越流して流下する。構造上、（ク）にせき上げの影響が上流側に及び、（コ）上問題となる場合があるため、とくに（コ）上の障害がないと認められる場合以外は、政令等によって築造が禁止されている。

1 排水路	2 かんがい農地	3 用水路	4 水位差	5 圧力
6 流れ	7 取水部	8 操作部	9 越流部	10 両岸
11 岩盤上	12 堤防	13 洪水量	14 取水量	15 濁水量
16 縦断	17 横断	18 遮水	19 下部構造	20 材質
21 形状	22 フローティング	23 シャフト	24 浮上	25 取水時
26 洪水時	27 濁水時	28 営農	29 治水	30 利水

(正答) ア：4 イ：3 ウ：17 エ：9 オ：19
カ：11 キ：22 ク：26 ケ：13 コ：29

【例題4】農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るための日本型直接支払制度のうち、中山間地域等直接支払制度の目的、内容及び効果について200字以内で述べなさい。

【例題5】 日本の造園様式の変遷に関する以下の文中の（ア）から（コ）に入る語句を下から選び、その番号を記入しなさい。

平安時代に入ると貴族が政治や文化の中心となった。貴族の住居は寝殿造り住宅と呼ばれ、住宅の南には寝殿造り庭園がつけられた。寝殿造り庭園には、池をつくるとともに、池を掘った土を盛り上げた（ア）や、小川や溪流を模した（イ）と呼ばれる流れも設けられた。平安時代の後期になると貴族達は、（ウ）思想の影響を受け、阿弥陀堂や金堂を建て、池にハスを植える（ウ）庭園と呼ばれる庭園をつくった。（ウ）庭園の例として、（エ）などがある。

鎌倉時代には武士の台頭と禅宗の隆盛に伴い、庭園も鑑賞・宴遊の場から精神修行の場として取り扱われるようになった。この時代の庭園には（オ）による西芳寺や天竜寺などの庭園がある。

室町時代中期の禅宗寺院では（カ）がつけられた。代表的な（カ）である（キ）は、石と砂だけで象徴的な世界が構成されている。

江戸時代になると政治が安定したため、諸大名が、江戸屋敷の邸内や自国の場内に、これまでの造園様式の要素を組み合わせた（ク）庭園と呼ばれる広大な庭園をつくるようになった。小堀遠州の作といわれる（ケ）などがつけられている。また参勤交代の旅で見た名勝地の風景を取り入れることも行われ、（コ）では琵琶湖が表現されている。

1 築山	2 州浜	3 須弥山	4 遣水	5 末法	6 浄土
7 平等院	8 西芳寺	9 栄西	10 夢窓国師	11 枯山水	
12 醍醐寺三宝院庭園	13 龍安寺方丈庭園	14 名古屋城二の丸庭園			
15 二条城二の丸庭園	16 縮景式	17 回遊式	18 後樂園	19 無鄰庵	

(正答) ア：1 イ：4 ウ：6 エ：7 オ：10
カ：11 キ：13 ク：17 ケ：15 コ：18

【例題6】 都市公園法により分類される住区基幹公園の種別を3つ挙げ、その設置目的や性格について、以下のキーワードをすべて用いて200字以内で述べなさい。

遊戯、休息、レクリエーション、スポーツ大会、災害

障害のある人を対象とする採用選考試験 建築職専門試験問題

【例題 1】 以下の文中の [カ] から [コ] に入る語句を下から選び、その番号を記入しなさい。

道路上空の開放性、建築物周辺の日照、採光などを確保することを目的として、建築物の各部分の高さについて定められている規定がある。これを一般に、斜線制限という。この斜線制限には [カ] 制限、 [キ] 制限、 [ク] 制限の 3 種類がある。

前面道路の反対側の境界線から、該当する敷地に向かって一定の勾配の斜線を引き、この斜線よりも内側の範囲に建築物の高さを制限するものを一般に、 [カ] 制限という。この場合、 [カ] の高さは前面道路の [ケ] からの高さによる。

用途地域に応じて、隣地境界線上の一定の高さの地点を起点として、その高さから敷地の上空の方向に斜線を引き、その斜線の範囲内に高さを制限するものを一般に、 [キ] 制限という。なお、低層住居系専用地域等では、 [コ] 制限が適用されるので、 [キ] 制限の適用は受けない。

用途地域に応じて、その敷地の真北方向の敷地境界線上、または真北方向の道路の反対側境界線上から、一定の高さを起点としてその敷地方向に一定の勾配の斜線を引き、その斜線内に建築物の高さを制限するものを一般に、 [ク] 制限という。なお、 [ク] 制限にはセットバックによる緩和は適用されない。

1 路面の両端	2 北側斜線	3 絶対高さ	4 日影規制
5 道路斜線	6 最低高さ	7 水平距離	8 隣地斜線
9 路面の中心	10 高度地区		

(正答) カ : 5 キ : 8 ク : 2 ケ : 9 コ : 3

【例題 2】 2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、建築物分野での取組が急務となっているが、脱炭素社会に資する住宅計画について、具体的な対策内容や留意点を 200 字以内で述べなさい。